

授 業 科 目 名	造形表現演習	教 員 名	山本 辰典	免許・資格 との 関 係	小学校教諭	選択
					幼稚園教諭	選択
					保育士	必修
授 業 形 態	演習	担当形態	単独	卒 業 要 件	こども音楽療育士	
科 目 番 号	HY0301	配当年次	3 年前期		小幼コース	選択
単 位 数	1 単位				幼保コース	選択
科 目						
施 行 規 則 に 定める科目区分 又 は 事 項 等						
一 般 目 標	保育の現場で活用できるパネルシアターや木の玩具を製作することで、製作に関わる技能と感性、創造性を高める。色と形を扱い、美しい作品をつくるための能力を高める。また、学生が題材を決めて、造形表現に関わる実践内容や方法を調べ、保育指導案を作成した上で模擬保育を行う。模擬保育後に事後研究を行うことで、教材を検討し、造形表現指導をする能力を高める。					
到 達 目 標	(1)木工に関わる技能を高める。 (2)色彩調和理論を理解し、配色のよい作品を製作する能力を高める。 (3)教材研究をし、保育指導案を作成し、模擬保育を行い、反省・評価をする。 (4)パネルシアターやエプロンシアターなどを製作し、演じ方について検討する。					
授 業 の 概 要	幼児および児童が楽しめる仕掛けのあるパネルシアターやエプロンシアター、ペープサートなどを製作し、実際に演じる機会を持つ。作品を丁寧に美しく仕上げ、材料道具の扱いを体験的に学ぶ。製作を通してバランス感覚や構成能力、色彩を効果的に使う能力を含むデザインの能力、創造的な技能を高める。これらの能力は視覚教材作成やプレゼンテーション用スライド作成、ポスター・チラシ製作等に役立つものである。また、実際に活用できる木の玩具を製作することで、道具を取り扱う技能を向上させ、自分で教具を製作しようとする意欲を高める。 また、学生が題材を決めて造形表現に関わる実践内容や方法を調べ、資料を作成し、製作指導を行う。製作後、話し合いの機会を持ち、その製作の良さや、指導上の留意事項を話し合う。 授業形態は演習とする。アクティブラーニングとして、ペアワークやグループディスカッションを取り入れる。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本演習は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「3. 教育者として、持つべき十分な記述力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項	事前に学生準備物を示すので、忘れず準備すること。道具等の購入場所が分からない場合は担当教員に相談すること。					
授 業 計 画	第1回：幼児教育において育みたい資質・能力を意識して造形表現の指導案を作成することを理解する。木の玩具製作①木取をして木を切る。(目標(1)) 第2回：木の玩具製作②木を磨いて木の塗装をする。(目標(1)) 第3回：木の玩具製作③組み立てて完成させる。(目標(1)) 第4回：色彩調和理論を知る①色の三属性と混色について知る。パネルシアター製作①パネルシアターの輪郭を描く(目標(2),(4)) 第5回：色彩調和理論を知る② 秩序の原理、なじみの原理、類似性の原理、明瞭性の原理について知る。パネルシアター製作②パネルシアターを半分配色よく塗る。(目標(2),(4)) 第6回：パネルシアター製作③パネルシアターを全部配色よく塗る。(目標(2),(4)) 第7回：パネルシアター製作④パネルシアターを完成させる。(目標(4)) 第8回：エプロンシアターの製作①部品を切る。(目標(4)) 第9回：エプロンシアターの製作②ファスナーテープをミシンでつけ、刺繍をする。綿を入れながら縫う。(目標(4)) 第10回：模擬保育①模擬保育をし、事後研究を行う。(目標(3))					

	第11回：模擬保育②模擬保育をし、事後研究を行う。(目標(3)) 第12回：模擬保育③模擬保育をし、事後研究を行う。(目標(3)) 第13回：造形表現の教材研究。段ボール板や段ボール箱でつくる。(目標(3)) 第14回：エプロンシアターの製作③綿を入れながら縫う。(目標(4)) 第15回：エプロンシアターの製作④エプロンを縫う (目標(4))
学生に対する 評価	作品50%・定期試験30%・保育指導案及び振り返り20% なお、レポートなどの提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。 ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。
時間外の学習 について	(事前・事後学習として週2時間以上行うこと。) ・授業時間内に作品は完成しない。各自時間をかけて、納得できるものとなるよう追究して仕上げる。計画的に時間外学習をすすめてほしい。 ・造形表現研究にあたっては、図書館で資料を探し、参考にするとともに、皆に伝えたいと思えるような価値のあるものを見付けだすようにする。製作指導においては、あらかじめ受講生が準備する材料、用具を伝えておくこと。 ・時間外学習においての道具や教室については、事前に担当山本にメールで確認すること。
テキスト	
参考書・ 参考資料等	『実習に役立つ パネルシアターハンドブック』 古宇田亮順 編 萌文書林
担当者からの メッセージ	配色よく、丁寧に仕上げよう。美しいものをつくれれば、何年も大切に使うことができます。
オフィスアワー	毎週月曜日 16:20~17:00 Email : tyamamoto@miu.ac.jp